



素晴らしい完成度の「カリフォルニア」だが、問題点は収納するスペースはなくソフトトップを装着することができなかったことだ。



E3を4シーターコンバーチブルモデルに作り替えた「カリフォルニア」はアメリカ西海岸を3日間にわたり、完璧に走り切った。



シートやインパネなどインテリアの仕上がりはとても美しい。ウッドステアリングホイールはナルディ製である。



長らくBMWは多くの車載工具とそれを収納する工具箱を装備していた。「カリフォルニア」に搭載されるのも当時のままだ。



ベースのBMW2800が搭載するのは170psを発生する2788ccの直列6気筒エンジン。BMWが直6を初搭載したモデルだ。

このE3シューティングブレークは24年には完成する予定で、チョーケさんはこのモデルで地平線の向こうにあった可能性を再現することで、現代人に再び夢を与えようとしているのだ。

しかし彼のプロジェクトはまだ終わっていない。現在は、E3ベースの「シューティングブレーク」が進行中なのである。しかもそれには彼の活動に共鳴したBMW本社もかかわっている。70年当時のデザイナータイレクターであったポール・ブラック氏がデザインを担当することになったのである。

ゾン（新たな地平線）プロジェクト」を企画、収集したE3が時代を超えて発展、進化していたらどんなことになるかを形にしたのである。それは現在の人々に当時のバイオニア精神を再び思い起こさせたいという大きな夢もあった。そこでまず制作したのが「アートカー」である。BMW本社が75

年から企画しているクルマに高名なアーティストがペイントしたクルマで、これまでに19台が発表されている。チョーケさんはE3をベースにドイツのポップアーティスト、ハイナー・マイヤー氏に依頼して69年に登場、大ヒット漫画「ピンクパンサー」をモチーフに同時代に起こった月面着陸などを

アレンジして完成させた。さらに70年代にBMWモータースポーツの象徴だった鮮やかなボディカラーであるインカレッド（あるいはインカオレンジ）を纏ったグループカーとスタンダードボディも完成させた。これらのクルマはすでに世界中の自動車ショーを始め、美術展示会などで

披露され話題を集めた。とくにアートカーはマイアミで22年に開催されたアートバーゼル美術展で人気の的となった記憶は新しい。4シーターオープンカーの次はシューティングブレーク。そして今回、西海岸で試乗したのが4シーターコンバーチブルモ

デル「カリフォルニア」である。このプロジェクトはチョーケさんが長年にわたって企画してきたもので完ぺきを目指すために多くの時間が費やされた。というのは存在しなかったモデルを4ドアサロンの作り出しねばならなかったからである。



開発コード「E3」のBMW2800シリーズ。チョーケ氏は、このE3に魅せられて合計20台以上を所有、その中の特徴的な4台を並べたのが上の写真である。

BMW2800シリーズ BMW 2800SERIES E3

BMW2800シリーズ（E3）に魅せられた男

「打倒メルセデスベンツ」、「ポルシェ911」を従えてアウトバーンの追い越し車線を走る、「初めてシルキーシックスを積んだ」、「BMWアイコン初採用」。今回はそんなBMW2800シリーズに魅せられ、夢を与えてくれた男の物語である。

文：木村好宏／写真：木村オフィス TEXT Yoshihiro Kimura PHOTOS Kimura Office

世の中にはたくさんさんのクルマ好きがいるが、彼らのお気に入りには様々だ。今回紹介するクリスチャン・チョーケさんが魅せられたのは1969年に開発コード「E3」で登場したBMWのアップバークラスである。直6エンジンの排気量によってBMW2500、あるいはBMW2800と呼ばれ、BMWがアップバークラス参入を目標とし、メルセデスベンツ打倒を期していた。搭載した直6エンジンは150psを発生、そのスムーズさゆえにシルキーシックスと呼ばれ、ポルシェ911を従えてアウトバーンの追い越し車線を堂々と走ることができると称賛されていた。

デザインは、後にBMWのアイコンとなったCピラー根元にあるキンク（広がり）を提案した同社のチーフデザイナーのウィルヘルム・ホーホマイスター氏が中心となり、ベルト・ネーとミケロツティが補佐して完成された。

このE3は77年までに約19万台が生産され、7シリーズへバトンタッチしたが、初のアップバークラス、初の直6エンジン、初のBMWアイコンを持ったデザインと卓越した性能によってBMWビンテージの一台に数えられている。こうした理由で国際弁護士のチョーケさんは、このE3を気に入っており、結果的に彼のコレクションホールにはベストコンディション



ドイツ人のアーティスト、ハイナー・マイヤー氏が手掛けたアートカー。



E3に魅せられた男、チョーケさんは国際弁護士として活躍する。

のE3が合計20台も集まった。実は彼にはあるアイデアがあったのだ。それはこのクルマの誕生した69年ということも関係している。この年は初の月面着陸など人類にとっても新たな時代の始まりを意味していたとチョーケさんは考えE3収集を契機に「ニューホライ